

## 日本体力医学会学会賞の受賞論文

学会賞（体力科学）：

### 幼児期における動きの質と運動能力の関連

黒川 優介<sup>1</sup>, 松井 公宏<sup>2,3</sup>, 岸 秀忠<sup>1</sup>, 宮田 洋之<sup>4,5</sup>, 鈴木 宏哉<sup>1,2,4</sup>

<sup>1</sup>順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科, <sup>2</sup>順天堂大学スポーツ健康医科学研究所,  
<sup>3</sup>筑波大学体育系, <sup>4</sup>順天堂大学スポーツ健康科学部, <sup>5</sup>中京大学スポーツ科学部

学会賞（JPFMSM）：

### Pre-exercise nitric oxide donor supplementation attenuates decline in muscle contractile force and ryanodine receptor proteolysis following eccentric contraction

Satoshi Matsunaga<sup>1</sup>, Daiki Watanabe<sup>2</sup>, Keita Kanzaki<sup>3</sup>,  
Sumiko Matsunaga-Futatsuki<sup>4</sup> and Masanobu Wada<sup>5</sup>

<sup>1</sup>Department of Sports Sociology and Health Sciences, Faculty of Sociology, Kyoto Sangyo University,  
<sup>2</sup>Graduate School of Sport and Exercise Sciences, Osaka University of Health and Sport Sciences,  
<sup>3</sup>Faculty of Health Science and Technology, Kawasaki University of Medical Welfare,  
<sup>4</sup>Department of Preschool Education, Higashiosaka Junior College,  
<sup>5</sup>Graduate School of Humanities and Social Sciences, Hiroshima University

奨励賞：

### Effects of rapid or slow body weight reduction on glucose tolerance during equivalent weight loss in rats fed high-fat diet

Yudai Nonaka<sup>1,2</sup>, Makoto Inai<sup>1</sup>, Shuhei Nishimura<sup>1</sup>, Shogo Urashima<sup>1</sup> and Shin Terada<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Department of Life Sciences, Graduate School of Arts and Sciences, The University of Tokyo,  
<sup>2</sup>Institute of Liberal Arts and Sciences, Kanazawa University

## 第38回日本体力医学会学会賞選考を振り返って

学会賞等選考委員長 宮地 元彦

学会賞および奨励賞を受賞されました会員の皆様、誠にありがとうございます。さて、本学会は毎年、「体力科学」および「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFMSM)」に公表された論文の中から、学会賞と奨励賞を選定しております。今回は、昨年に「体力科学」と「JPFMSM」に公表された論文からそれぞれ高い評価を受けた論文一編ずつが学会賞、若手学会員が筆頭著者の論文の中から高い評価を得た一編が奨励賞として選定され、2025年9月に滋賀県の立命館大学びわこ・くさつキャンパスで行われた日本体力医学会第79回大会で受賞者の表彰と講演が行われました。

本学会賞は体力科学73巻1号から6号に掲載された論文のうち筆頭著者が本学会員である10本、JPFMSM第13巻1号から6号に掲載された論文のうち筆頭著者が本学会員である11本の論文の中から選考されました。科学的に意義のある研究を遂行し、その成果を原著論文として執筆し、両誌に投稿して下さいました全ての著者の皆様に深く御礼を申し上げます。選考にあたって、科学的知見の独創性、研究手法の妥当性、社会への応用・発展性を考慮し、複数の委員による厳正なる評価と討議を行いました。客観的かつ公平中立の立場で選考に臨んで頂いた選考委員の方々にも御礼申し上げます。

日本体力医学会は、国内外における体力、身体活動、スポーツ等に関連する研究の進歩、発展を促進させる使命を担っており、それを実現する上で、「体力科学」と「JPFMSM」は重要な役割を果たしています。両誌に掲載される論文の数や質は、本学会の活動のみならず学会員の研究活動の活性度を表す重要な要素の一つです。しかし、残念ながら両誌とも掲載論文数、選考対象論文数が昨年度よりも減少してしまいました。本学会の研究活動を元気にし、活発にするために、学会員の皆様の貴重な研究成果を「体力科学」あるいは「JPFMSM」に積極的にご投稿いただき、国内外の体力医学ひいてはスポーツ科学の研究の推進・発展にご貢献頂きますと幸いに存じます。学会員の皆様にとって、本学会賞・奨励賞が憧れとなり、ますます価値の高いものとなるよう、学会賞等選考委員一同これまで以上に努力して参ります。

## 一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2025年2月）議事録

日 時：2025年2月21日（金）午後5時00分～7時20分

場 所：ZoomによるWeb会議

議 長：永富良一理事長

出席者：永富良一理事長、

内藤久士，小熊祐子各副理事長，  
中田由夫常務理事，赤間高雄，井上 茂，  
甲斐裕子，勝川史憲，後藤勝正，下光輝一，  
須永美歌子，田畑 泉，内藤義彦，中里浩一，  
成田和穂，檜垣靖樹，前田清司，町田修一，  
宮下政司，宮地元彦各理事，石井好二郎監事，  
松山郁夫第78回大会長，  
山津幸司第78回大会実行委員長，  
家光素行第79回大会実行委員長，  
津田英一第80回大会長

欠席者：岡浩一朗，竹森 重，田村好史，浜岡隆文，  
宮川俊平各理事，清田 寛，小林康孝各監事

### 【審議事項】

#### 1. 前回議事録の承認（永富理事長）

理事会終了時までに訂正等がなかった場合には，自動的に承認されることにした。

#### 2. 大会支援WGの設置について（井上総務委員長）

井上総務委員長より資料に基づき，大会と学会の連携を促進するため，総務委員会に大会支援WGを設置すること，家光素行氏がWG長を務めることが提案され，承認された。

#### 3. 部会・若手の会の設立について（井上総務委員長）

井上総務委員長より資料に基づき，医師部会，理学療法士部会，健康運動指導士部会，若手の会の設立申請書を受理し，審査を行った結果，いずれも設立を認めることが提案され，承認された。

#### 4. スポーツ医学研修会参加費について

##### （中里スポーツ医学研修会委員長）

中里スポーツ医学研修会委員長より資料に基づき，コンテンツおよび開催形式を刷新して開催再開するスポーツ医学研修会の参加費について提案され，承認された。

#### 5. 雑誌「体育の科学」からの執筆依頼について

##### （甲斐男女共同参画推進委員長）

甲斐男女共同参画推進委員長より資料に基づき，雑誌「体育の科学」から依頼があった「学会のダイバーシティ&インクルージョンの現状」に関する記事の執筆承諾について提案され，承認された。

#### 6. その他

##### 1) 監事の補充について（永富理事長）

永富理事長より，監事の補充について検討中であることが報告され，引き続き検討し，継続審議することになった。

##### 2) 学会員を対象とするアンケート調査実施の申し出

について（中田常務理事）

学会員を対象とするアンケート調査を実施したいとの申し出が学会員からあったことが報告され，学会事務局から学会員への一斉メール配信により調査協力を行うことが提案された。宮地理事，内藤義彦理事より，学会員に対して個人情報の取扱いへの懸念を取り除く配慮が必要であることが指摘された。後藤理事より，今後学会員が同様の調査等の申し出を行う際の手順や窓口を明確にすることが必要であることが指摘された。審議の結果，今回のアンケート調査への協力について承認された。

### 【報告事項】

#### 1. 各種委員会報告

##### 1) 総務委員会（井上総務委員長）

資料に基づき，総務委員会の活動状況について報告された。

- (1) 第81回（宮崎）大会長を検討中である。
- (2) 規程WGを中心に，学会規程類の公開への準備を行っている。
- (3) 大塚製薬株式会社と引き続き協議し，「大塚スポーツ医・科学賞選考規程」の改訂を検討している。
- (4) 会員情報WGでは，第78回（佐賀）大会後に実施した学会員・大会参加者アンケートの回答結果の集計を行った。
- (5) その他の今後の検討事項として，退会届，抄録のPDF化，休会制度の設定がある。

##### 2) 編集委員会（後藤編集委員長）

資料に基づき，「JPFMSM」誌，「体力科学」誌の投稿・掲載状況等が報告された。

- (1) 「JPFMSM」誌，「体力科学」誌の投稿・掲載状況＜投稿状況＞（2024年9月1日～2025年1月31日）
- |            |                   |
|------------|-------------------|
| 「JPFMSM」誌： | 新規投稿14編（内海外2編含む）  |
|            | 2025/1/31現在，審査中8編 |
|            | ※前年同期間：新規投稿20編    |
|            | （内海外2編・特集号4編含む）   |
| 「体力科学」誌：   | 新規投稿8編            |
|            | 2025/1/31現在，審査中5編 |
|            | ※前年同期間：新規投稿17編    |

＜発行予定＞

「JPFMSM」誌

○Vol. 14, No. 2（2025年3月25日発行）

Regular Article 3編

○Vol. 14, No. 3（2025年5月25日発行）

Regular Article 2編+Short Communication 1編

○Vol. 14, No. 4（2025年7月25日発行）

Regular Article 2編+Short Communication 1編

○Vol. 14, No. 5（2025年9月25日発行）

Regular Article 2編+Short Communication 2編

○Vol. 15, No. 1（2026年1月25日発行）

Regular Article 3編

○Vol. 15, No. 2（2026年3月25日発行）

Regular Article 2編+（今後の受理論文）

「体力科学」誌

○Vol. 74, No. 2 (2025年4月1日発行)

ノート1編+資料2編

(2) CCライセンス表示について

「体力科学」Vol. 73, No. 6, 「JPFMS」Vol. 14, No. 1より、冊子体の各論文PDFにもCCライセンスを表示することとした。

3) 学術委員会 (町田学術委員長)

資料に基づき、以下について報告された。

(1) 第79回(滋賀)大会でのAIセミナー、論文サポートセミナーを企画している。

(2) オンラインによる定期的な学術セミナーの開催を検討している。

(3) 「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」を受けて、多施設での運動介入研究を検討している。

4) 男女共同参画推進委員会

(甲斐男女共同参画推進委員長)

資料に基づき、以下について報告された。

(1) 第79回(滋賀)大会でのシンポジウム企画を提案した。

(2) 一般社団法人男女共同参画学協会連絡会への参画について

・第23期定時総会に委員メンバーが参加

(甲斐委員長)

日時：2024年12月10日(火) 13:00~13:30

・第1回運営委員会に委員メンバーが参加

(甲斐委員長)

日時：2024年12月10日(火) 13:30~14:35

5) プログラム委員会 (須永プログラム委員長)

資料に基づき、第79回(滋賀)大会での本部企画プログラムの進捗状況について報告された。

6) 広報委員会 (田畑広報委員長)

学会HPでの「体力医科学に関する最近のトピックス」の定期的な更新を行っている。

7) スポーツ医学研修会委員会

(中里スポーツ医学研修会委員長)

研修会会告を「体力科学」に掲載する準備を行っている。

8) 倫理委員会 (成田倫理委員長)

学会員に対して「大会における一般演題応募時の倫理的手続きについて」の周知を行った。

9) 渉外委員会 (宮下渉外委員長)

(1) 2024年度若手研究奨励賞(国際学术交流)受賞者のうち、やむを得ず対象年度内に国際学会に参加できなかった受賞者がいたことから、当該賞の賞金等制度の詳細について検討している。

(2) 学会員で公募した韓国運動生理学会とのジョイントシンポジウムでのスピーカー派遣について、学会賞等選考委員会での選考を経て、江島弘晃氏と畑中翔氏に決定した。

## 2. 第78回(佐賀)大会の収支報告

(山津第78回大会実行委員長)

山津実行委員長より、資料に基づき、第78回(佐賀)大会の収支報告が行われ、公認会計士による監査が終

了したことが報告された。

### 3. 第79回(滋賀)大会の進捗状況

(家光第79回大会実行委員長)

家光実行委員長より、資料に基づき、第79回(滋賀)大会の進捗状況が報告された。

### 4. 第80回(青森)大会の進捗状況

(津田第80回大会長)

津田大会長より、資料に基づき、第80回(青森)大会の進捗状況が報告された。

### 5. 日本体育・スポーツ・健康学会シンポジウムの協力名義について(須永理事)

須永理事より、資料に基づき、日本体育・スポーツ・健康学会大会のシンポジウムに日本体力医学会として名義協力することが報告された。

### 6. 日本スポーツ体育健康科学学術連合の委員について(宮地理事)

宮地理事より、日本学術会議の「生命科学系の学協会連合体との円卓会議」に宮地理事が日本スポーツ体育健康科学学術連合を代表して参加することになったことが報告された。

### 7. 日本医学会連合社会部会リトリートについて(小熊副理事長)

小熊副理事長より、資料に基づき、2025年2月22日~23日の日本医学会連合社会部会リトリートに出席予定であることが報告された。

### 8. その他

1) 「医師による身体活動・スポーツ実施支援に関するアンケート」への協力について(小熊副理事長)

小熊副理事長より、資料に基づき、厚生労働科学研究による「医師による身体活動・スポーツ実施支援に関するアンケート」への協力について報告された。

## 一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2025年5月）議事録

日 時：2025年5月9日（金）午後5時00分～7時15分

場 所：立命館東京キャンパス サピアタワー8階

およびZoomによるハイブリッド形式

議 長：永富良一理事長

出席者（現地）：

永富良一理事長，内藤久士，小熊祐子各副理事長，

甲斐裕子，後藤勝正，下光輝一，須永美歌子，

田畑 泉，町田修一各理事，石井好二郎監事，

家光素行第79回大会事務局長，

津田英一第80回大会長

出席者（オンライン）：

中田由夫常務理事，赤間高雄，井上 茂，岡浩一郎，

竹森 重，田村好史，内藤義彦，中里浩一，成田和穂，

檜垣靖樹，前田清司，宮下政司，宮地元彦各理事

欠席者：勝川史憲，浜岡隆文，宮川俊平各理事，

清田 寛，小林康孝各監事

### 【審議事項】

#### 1. 前回議事録の承認（永富理事長）

理事会終了時までに訂正等がなかった場合には，自動的に承認されることにした。

#### 2. 令和7年度決算見込みについて（中田常務理事）

宮川財務委員長が欠席のため中田常務理事より，資料に基づき，令和7年度決算見込みについて報告された。収入の部では「会費収入」が予算額に対して見込み額が1,800,000円ほど少ないこと，「大会開催収入」も見込み額が予算額を下回っているが，「大会開催費」も小さく抑えたため，佐賀大会は赤字決算にはなっていないことが説明された。収入62,893,381円は見込みであるが，予定通りの収入となれば，令和7年度決算見込の収支差額は，4,515,919円の赤字となる旨，説明された。審議の結果，承認された。

#### 3. 令和8年度予算原案について（中田常務理事）

宮川財務委員長が欠席のため中田常務理事より，資料に基づき，令和8年度予算案について報告された。赤字予算となっており，会員数と会費収入の増加への取り組みの必要性について説明された。次回理事会および社員総会での予算案の審議に向けて各種委員会等からの予算に関する要望を受け付けたい旨が述べられた。審議の結果，承認された。

#### 4. 令和8年度事業計画案について（永富理事長）

資料に基づき，令和8年度事業計画案について，各委員会から報告がなされた。審議の結果，承認され，9月の社員総会に諮ることになった。

#### 5. 第38回日本体力医学会賞選考結果について

##### （宮地学会賞等選考委員長）

資料に基づき，3月27日にZoomによるWeb会議での審議にて開催された学会賞選考委員会において，学会賞（体力科学），学会賞（JPFISM）および奨励賞の候補の3件を選考したことが報告された。副賞（60万

円）については，学会賞（体力科学），学会賞（JPFISM），奨励賞にそれぞれ20万円とすることが説明された。審議の結果，承認された。

##### 【学会賞（体力科学）】

73巻-2号-2（体力科学）

黒川優介，松井公宏，岸 秀忠，宮田洋之，鈴木宏哉

「幼少期における動きの質と運動能力の関連」

##### 【学会賞（JPFISM）】

13巻-2号-2（JPFISM）

Satoshi Matsunaga, Daiki Watanabe, Keita Kanazaki, Sumiko Matunaga-Futatsuki, Masanobu Wada

「Pre-exercise nitric oxide donor supplementation attenuates decline in muscle contractile force and ryanodine receptor proteolysis following eccentric contraction」

##### 【奨励賞】

13巻-3号-3（JPFISM）

Yudai Nonaka, Makoto Inai, Shuhei Nishimura, Shogo Urashima, Shin Terada

「Effects of rapid or slow body weight reduction on glucose tolerance during equivalent weight loss in rats fed high-fat diet」

#### 6. 日本体力医学会利益相反（COI）に関する運用指針およびCOI申告フォームの改定について（後藤編集委員長）

勝川利益相反委員長が欠席のため，後藤編集委員長より，資料に基づき，利益相反（COI）に関する運用指針およびCOI申告フォームの改定について説明がされた。井上総務委員長より意見が出され，付則の箇所の適切な記載の仕方については確認を取ることになった。審議の結果，運用指針および申告フォームの改定について承認された。

#### 7. 日本学術会議法案に関する対応について

##### （中田常務理事）

資料に基づき，日本学術会議法案に関する日本体力医学会声明を发出することが提案された。審議の結果，承認された。

#### 8. 宮崎大会長の推薦について（井上総務委員長）

資料に基づき，田島卓也氏（宮崎大学整形外科分野准教授，スポーツ医学担当）が第81回日本体力医学会大会（宮崎）の大会長に推薦され，審議の結果，承認された。

#### 9. 規定の改廃について（井上総務委員長）

資料に基づき，「日本体力医学会学会賞選定のための内規」の改定，および「学会運営に関する内規」「ガイドライン検討委員会規程」「学術委員会プロジェクト研究委員会規程」「プロジェクト研究委員会内規」の廃止が提案され，審議の結果，承認された。各種学会規定の改廃は原則として理事会決議事項であることが確認された。

## 10. 部会・若手の会のホームページの立ち上げについて (井上総務委員長)

資料に基づき、部会・若手の会のホームページ立ち上げについて説明がなされ、審議の結果、承認された。

## 11. 部会・若手の会のSNSアカウントの取得・運用について (井上総務委員長)

資料に基づき、部会・若手の会のXおよびFacebookの開設の説明がなされ、審議の結果、承認された。

## 12. その他

特になし。

### 【報告事項】

#### 1. 各種委員会報告

##### 1) 編集委員会 (後藤編集委員長)

(1) 「JPFMSM」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況  
<投稿状況> (2024年9月1日~2025年4月20日)

「JPFMSM」誌：新規投稿26編 (内海外2編)

※前年同期間：新規投稿34編

(内海外4編・特集号3編含む)

審査済 = 14編

(採択4編, 不採択9編, 投稿取り下げ1編)

審査中 = 12編 (4/20現在)

「体力科学」誌：新規投稿18編

(依頼3編, 特集号2編含む)

※前年同期間：新規投稿23編

審査済 = 9編 (採択3編, 不採択6編)

審査中 = 9編 (4/20現在)

<発行予定>

「JPFMSM」誌

○Vol. 14, No. 3 (2025年5月25日発行)

掲載論文3編

○Vol. 14, No. 4 (2025年7月25日発行)

掲載論文3編

○Vol. 14, No. 5 (2025年9月25日発行)

掲載論文4編

○Vol. 14, No. 6 (2025年11月25日発行)

Proceedings

○Vol. 15, No. 1 (2026年1月25日発行)

掲載論文3編

○Vol. 15, No. 2 (2026年3月25日発行)

掲載論文3編

○Vol. 15, No. 3 (2026年5月25日発行)

掲載論文2編

「体力科学」誌

○Vol. 74, No. 3 (2025年6月1日発行)

掲載論文3編

○Vol. 74, No. 4 (2025年8月1日発行)

特集号

##### 2) スポーツ医学研修会委員会

(中里スポーツ医学研修会委員長)

第31回日本体力医学会スポーツ医学研修会に向けての準備を進めている。

##### 3) 全国地方会実行委員会 (岡全国地方会実行委員長)

岡全国地方会実行委員長より、資料に基づき、地

方会の開催や予算の活用方法の柔軟な対応についての各地方会からの意見が報告された。竹森理事より、従来からの地方会の運営に関する取り決めについて説明があった。井上総務委員長より、地方会に関する学会規定の整備状況について説明があった。

##### 2. 第79回(滋賀)大会の進捗状況

(家光第79回大会事務局長)

資料に基づき、大会の準備状況が報告された。収支計画についても説明がされた。井上総務委員長より、滋賀大会中の若手の会の会合の検討状況について報告があり、その開催費用は学会本部から支出する方針が確認された。内藤副理事長より託児所について確認があり、第78回(佐賀)大会に引き続き、託児所設置費用は学会本部から支出する方針が確認された。

##### 3. 第80回(青森)大会の進捗状況(津田第80回大会長)

資料に基づき、大会の準備状況が報告された。

##### 4. 日本医学会連合TEAM事業について(小熊副理事長)

資料に基づき、昨年度の提案内容をブラッシュアップして再申請の方針であること、ワーキンググループを形成して検討を進める方針の旨、説明された。

##### 5. 健康日本21推進全国連絡協議会「連携指標」の策定について(小熊副理事長)

資料が提示され、各自内容を確認することとした。

##### 6. 日本医学会第9回研究倫理教育研修会について

(小熊副理事長)

資料が提示され、各自内容を確認することとした。

##### 7. その他

###### 1) 内藤義彦理事の辞任について(永富理事長)

永富理事長より、内藤義彦理事が健康上の理由により理事を辞任する意向であることが報告された。

###### 2) 規定類の公開について(井上総務委員長)

手順について説明があり、確認された。

###### 3) 退会届について(井上総務委員長)

現状では事務作業が増えるため、提示された様式は用いないこととなった。退会時の情報収集については継続検討する。

###### 4) 会員情報の公開について(井上総務委員長)

会員情報のHP上の公開場所が確認された。今後公開作業を進める。

###### 5) 部会・若手の会について(井上総務委員長)

大会事務局と連携して、企画が進められることが報告された。また、若手の会の集会については、お昼の時間を活用して軽食(費用負担は学会)が提供されることが確認された。

###### 6) 学会が行う大会支援について(井上総務委員長)

大会支援WG(家光WG長)においてマニュアルが作成されることが報告された。また、大会の準備運営委員会に、その次の大会の代表(大会長、運営委員長、事務局長など)が参加できる旨の確認がなされた。

## 編 集 後 記

体力科学第74巻第5号をお届けします。本号には原著論文1編、教育講座2編が掲載されております。また、JPFISM, Vol. 14, No. 5のRegular Article 2編、Short Communication 2編の抄録も掲載されております。ご投稿いただいた著者の皆様に感謝申し上げます。いずれも質の高い論文であり、会員の皆様にはぜひご一読いただきたいと思っております。

さて、本学会は体力科学・スポーツ医学を中心とした学会ですので、ヒトを対象とした研究が多く、そのほとんどは介入・侵襲を伴うものであることから、研究開始前に倫理承認が必要です。体力科学も、著者の所属機関等の研究倫理委員会の審査を受け、承認された研究の論文のみ投稿を受け付けております。

一方、毎年開催されている大会の一般演題の発表に関しては、これまで倫理承認についての規定はありませんでした。しかし、近年、日本医学会連合は「学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針」を発表し、加盟学会の学術集会で医学系研究を発表する際は、倫理的手続きを遵守するよう求めました。本学会も日本医学会連合に加盟しておりますので、数年前より倫理委員会で検討を重ね、2025年9月開催の第79回滋賀大会から、倫理承認が必要な研究の一般演題については、すでに倫理承認を得ている演題のみ登録を受け付けることに

なりました。

ところで、例年、大会の一般演題を聴講しますと、独創的でぜひ原著論文として体力科学やJPFISMに投稿してほしい研究が多数あります。しかし、実際の投稿数は多くありません。本学会に限りませんが、最近の傾向として、学会発表をしても論文化しない研究者が増えているように感じます。

大会の一般演題は、その年のJPFISM No. 6に英文抄録が掲載されますが、これは論文ではありません。研究は、学会発表で終わりではなく、論文化して完結します。せっかく倫理承認を得て開始した研究ですし、英文抄録も作成済ですので、大会で発表された演者の方は、もうひと頑張りして論文にしてみてもどうでしょうか。

論文としてまとめる過程で、異なる視点でデータを見直したり、査読者の指摘で新たな気づきを得て視野が広がり、次の研究テーマが見えてくることもあります。最終的に掲載に至らなくても、論文を書くことは、実は今後の研究を進めていくうえでもメリットは大きいのです。特に大学院生の皆さん、臆せず積極的な投稿をお待ちしております。

成田和穂

## The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.74, No.5

### 体 力 科 学 第 7 4 巻 第 5 号

令和 7 年 9 月 25 日 印 刷

令和 7 年 10 月 1 日 発 行

編集兼発行者  
発 行 所

編 集 事 務 局

印 刷 所

後 藤 勝 正

一般社団法人日本体力医学会

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13

RENEX Shin-Otsuka 3F 学会支援機構内

TEL : 03-5981-6015 FAX : 03-5981-6012

E-mail : jspfsm@asas-mail.jp

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社内

TEL : 0235-22-3120 FAX : 0235-22-3120

E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社